

**1. 活動報告（事務局 記）**

- 6月4日（日）6月17日の田植えに向けて、田んぼ周辺の整備（草刈、あぜ塗り）を、行いました。また、エコアップにて、蓮田の整備も時間まで行いました。  
（参加会員14名+子ども3名）
- 6月10日（土）きららネットこどもエコクラブがビオトープへ遊びに来られました。  
寺森、若林、松本、西原会員の4名で対応しました。
- 6月17日（土）午前中の作業は、田植えを行いました。  
（子供41人、会員21人、保護者+その他22名参加）
- 6月17日（土）午後の里山自然観察隊は昆虫の観察でした。  
隊員25名、保護者11名、会員13名で、たくさんの昆虫を観察しました。
- 6月17日（土）宇部市地球温暖化対策ネットワークの総会  
今井会長と若林事務局長代行が出席されました。

**2. 今後の予定（事務局 記）**

## ◎ 見学者

- 4月より ネイチャークラブが毎月ビオトープで散策活動をされます。岡田さんより（案内者不要です。）

## ◎ 行事

- 7月2日（第一日曜日）の活動（従来の活動）
- 7月15日（第三土曜日）の活動（従来の活動）  
午後は里山自然観察隊の第4回目の観察活動（魚と水生昆虫）

**3. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝****アンペライとクログワイ**

5月の作業のとき、ため池で種類のわからないカヤツリグサの仲間がありました。調べたところ、それはアンペライというカヤツリグサ科アンペライ属の日本には1属1種の草であることがわかりました。アンペライは、本州の東海地方以西から東南アジアまで分布する高さ1mになる多年草です。茎の断面は円形から楕円形で葉の先端はよく尖っています。初夏に茎の先端に赤褐色の花序を形成します。アンペライとは、ポルトガル語を語源とする筵とか敷物をさすことばです。この草は、幹が中空で乾燥しても柔らかいのでアンペライくらいしか使えないイグサという意味でアンペライという名前がついたようです。別名をネビキグサと言いますが、これは引く抜くと地下茎が長く付いてくることからきているそうです。牧野図鑑ではこちらのネビキグサという名前が採用されています。山口県では絶滅危惧種ではありませんが、島根県、大阪府、愛知県などでは準絶滅危惧種に上がっています。自然度の高い湿地を代表する植物として、植物生態学では「アンペライ群落」という群落名としても使われています。

クログワイは、カヤツリグサ科ハリイ属の多年草で、池や沼などでよく見られます。地下にクワイに似た小さな塊茎があり、はじめ細い針金状の茎が発生し、続いて中空の太い茎に変わります。茎は円柱状で中空、2～4cm間隔で横の隔膜で仕切られています。葉は茎の下の方で茎を包んでいる筒状の鞘で、ほとんど目立ちません。初めてこのクログワイを見たときはトクサに似ていたので、

この草はシダの仲間か、と思っただけです。秋になると茎の先に細長い円柱形の淡緑褐色をした小穂をつけるので、この時期に見ればさすがにカヤツリグサ科とわかりますが、一見しただけでは何の仲間かわからない植物の代表的なものといってよいでしょう。地下の塊茎が食用のクワイに似て、黒っぽいことからクログワイという名前になっています。この仲間のオオクログワイ(別名シログワイ)を改良したものが中国料理でよく炒め物に使われる「クワイ」ですが、クログワイはアクが強く食べられないそうです。もっともイノシシは秋になると湿地を掘り返してこのクログワイの塊茎を食べるといいます。この塊茎には除草剤が効きにくいので、いったん水田に入り込むと根絶させることは困難で、最近では水田の強害草としても問題になっています。



アンペライ (カヤツリグサ科)

クログワイ (カヤツリグサ科)

#### 4. ビオトープ関連 (会員の声)

##### 里山ビオトープ活動に参加して (金子 道昭 記)

30数年ぶりにふるさと二俣瀬に帰り、旧友の原田事務局長に声をかけられて途中から参加して早くも二年余りが経過しました。

この間いろいろな行事に参加して、次々に貴重な体験をさせてもらっています。

活動内容についてはある程度予想していたとおりでしたが、驚いたことはそれぞれの分野に素晴らしい専門家がおられてレベルが高く、豊富な知識やノウハウが得られること(残念ながらなかなか自分のものとなりませんが)、今ひとつは参加者がどのような活動にも一生懸命取り組んでおられることで、この姿が自分の意思で参加するボランティア活動かと改めて感じたことです。

また、事務局や関係者のかたがたの、活動日はもちろんのこと、その間の作業の手配や準備には頭の下がる思いです。

この種の活動が全国各地にあります、数年で終わってしまうことも多いと聞きます。生物の多様性の大切さが云われていますが、活動内容の多様性で一人でも多くの参加を得て楽しみながら長く続けたいものであり、続けてゆくことで又新しい発見もあると思っています。

私も我が家の里山に手をとられ?決して優良会員ではありませんが、できるだけ参加して身近な動植物への理解を深めるとともに、良い汗を流し、健康維持とうまいビールが飲めればと不届きな思いももっています。

これからもどうぞ宜しくお願いします。

## 会報58号を読んで (関根 雅彦 記)

58号の原田さんの「会員の声」を見ました。昨年山脇さんの話以来、「ビオトープ」とは、で悩んでおられる方も多いのだと思いますが、同じく58号の美濃和さんのキショウブについてのコラムの通りに考えればよいのです。「外来種」かどうか、「ビオトープ」かどうか、という人間の決めたことで悩むのはばかげています。明治以前か以降かで線引きされていること一つとっても、「外来種」が合理的な基準でないことがわかるでしょう？その生物の良し悪しは、里山の生態系に悪影響を及ぼしているかどうか、で第一に判断すべきです。キショウブがこの点で問題がないのなら、会員の大半が里山の思い出として「よい気持ち」になれるものである限り、胸を張っていればよいと思います。昨年の講演で山脇さん自身が主張していたこと、「五感で『気持ちいい』と思えるものは本当に良いものだ」、ということ思い出しましょう。

5月22日、山口で再度山脇さん、長谷川さんに会いました。キショウブ問題でビオトープについて議論が深まったこと、エコアップ活動のウェイトが高まったことを伝えると、たいへん喜んでくれました。外部との交流によって刺激を受け、議論を続けていくことこそ大切なのです。

次回 会員 さんをお願いします。

### 5. 里山自然観察隊 (6月17日、隊員25名、保護者11名、会員13名)

#### 昆虫観察

今回は、昆虫の観察ということで、天気が心配でしたが、雨も降らず予定どおり行うことが出来ました。午前中かなり冷えたせいもあり、また、曇り空ということもあり、観察できた虫の種類が少なかったのが残念でしたが、クワガタを見つけた子供もいたりして、皆結構楽しかったのではないかと思います。観察結果は次のとおりで、ベニイトトンボ、グンバイトンボを捕まえ、見事二俣瀬券をゲットし喜んでいて子供もいました。

ところで、昆虫の成虫は、その発生時期が決まっています、1年中(冬も)いつでも見られるものから、春だけ、夏だけしか発生しないものも多くいます。蝶なんかは、真冬でも暖かい日には見ることが出来るものがたくさんいます。ほたるは5月の終わりから6月中頃までのわずかの間しか見ることができませんね。

私はもっぱら蝶を追いかけているのですが、ビオトープ周辺で約50種類を見かけています。名前の確定が出来なかったものもいますし、まだ見ていないものもたくさんいると思います。出来る限り撮りたいと思っていますので、これからも、ぶらぶら歩きを続ける予定です。

#### 【観察結果】

##### トンボ (6科13種)

イトトンボ科 : クロイトトンボ、ベニイトトンボ、アオモンイトトンボ、キイトトンボ (透明型)  
モノサシトンボ科 : モノサシトンボ、グンバイトンボ  
カワトンボ科 : ニシカワトンボ (橙色型)  
サナエトンボ科 : ヤマサナエ  
ヤンマ科 : ハラビロトンボ、ショウジョウトンボ、シオカラトンボ

##### 蝶 (5科14種)

アゲハチョウ科 : アゲハチョウ、モンキアゲハ  
シジミチョウ科 : ルリシジミ、ツバメシジミ、ヤマトシジミ  
ジャノメチョウ科 : ヒメウラナミジャノメ、ヒメジャノメ  
シロチョウ科 : モンシロチョウ、キチョウ  
タテハ科 : アカタテハ、ルリタテハ、ツマグロヒョウモン

##### バッタ

ツチイナゴ、クビキリギス、ヒシバッタ、マダラバッタ? キリギリス? カマキリの仲間

##### その他

マメコガネ、コメツキムシの仲間、ゴミムシの仲間、ベニカミキリ、ヒラタクワガタ、コガネムシ、

コガネムシの仲間、コアオハナムグリ、ウスバカゲロウ

(藤井 義晴 記)

6. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

今月はありませんでした。

7. 会よりの連絡事項

特にありません。

8. 編集後記

里山ビオトープの会報も次回で60回となります。この間、西原編集長には大変なご苦勞な思いで編集されたと頭の下がる思いです。

“継続は力なり”と言われていますが、投稿をお願いしてもなかなか書いていただけない会員の方も多く、よくも長く続いていると感心しています。

内容については、当初は地域の動植物の説明、民話や謂われ等たくさんの原稿となることがあって割りと簡単に投稿できたと思われるが、最近は品切れ状態で、なかなか難しくなっている。

以前に書いた事もあります。写真や挿絵を入れる。またカラー刷りにする等の今から先はレベルアップする事が望ましいと思いますが、まずは継続する事が一番の目標ではないでしょうか。

(原田 満洲夫 記)

## 2006年度 第2回『ビオトープで遊んじゃおう』を終えて

2006年6月10日(土) 晴れときどき曇り  
こども24名(内:男13、女11)・スタッフ10名



『里山ビオトープニ侯瀬を作る会』に協力していただき、活動しました。  
まず、4班に分れ、『生き物BINGO』のスタート! (^o^)  
班対決のビンゴのルールは、『生きたまま捕まえること!』です。  
せっかく捕まえたメダカをタイコウチに食べられた班もありました。  
『ゲンゴロウ』は、見つかることもできませんでした。く、くやしい。  
生き物をきれいな水槽に移して、よ〜くみると・・・あれれ?  
これは、メダカじゃなくて、ハヤだよ!なんて、嬉しいラッキーも。



班行動中。  
サンダルを忘れても、裸足で  
沼や川に入っていき、  
元気な子供ばかりです!

「水車を初めて見る」と感激している子供もいました!

捕まえた生き物にお礼を言い、大きな沼へ  
リリースしました。(\*^-^\*)  
生き物さん、ありがとう!



- ～4班の水槽～
- ドンコ
- ハヤ
- メダカ
- エビ(2種類)
- カニ
- ヤゴ

ゲストと一緒に楽しい昼食を終え、午後からは、まじめにお勉強です。  
テーマは、『食物連鎖(しょくもつれんさ)』です。  
生き物は、水と土と空気と太陽(光)がないと、生きることができないと、教えていただきました。  
また、生き物は「生産者」「植物を食べる小動物」「小型動物」「大型動物」のグループに分けることができるんだって。そこで、午前中に自分たちが捕まえた生き物は、どのグループなのか、ゲーム形式で考えました。  
低学年にはちょっと、難しかったみたいだけど、「みんなで考える」という大切な時間を過ごしました。



最後に・・・  
生き物は、私たちも含め、  
みんな繋がっていること。  
目に見えない生き物もいる  
こと。  
そして、どの生き物が増えても、  
減ってもダメだということを  
感じることができました。  
「里山ビオトープニ侯瀬を  
作る会」の皆様、ありがとう  
ございます。